

写真展 日本人とエベレスト ~その聖性から大衆化まで~

- 日時 10月19日(土)~12月1日(日) 毎週月曜日、祝日の翌日は休館
10・11月:午前9時~午後5時(入館は午後4時30分まで)
12月:午前10時~午後4時(入館は午後3時30分まで)
- 会場 市立大町山岳博物館 特別展示室
- 入館料 通常の入館料が必要(大人450円 高校生350円、小・中学生200円)
- 主催 信州の山岳文化創生会議
- 共催 市立大町山岳博物館
- 協力 日本山岳会 山と溪谷社 読売新聞社 毎日新聞社
梅棹忠夫・山と探検文学賞委員会

関連イベント

講演とシンポジウム

- 日時:11月17日(日) 13:30~16:00
- 会場:市立大町山岳博物館講堂
(先着順 40名、入場無料)

第一部 講演(13:30~14:30)

- 演題「写真で見るエベレスト日本隊」
- 講演者 神長幹雄氏

第二部 シンポジウム(14:40~16:00)

- 演題「エベレスト 聖性からその喪失まで」
- パネリスト
古野 淳氏 倉岡裕之氏 神長幹雄氏
- モデレーター
扇田孝之氏

講演者・パネリスト紹介



古野 淳（ふるの・きよし）

1961年、福岡県生まれ。前日本山岳会会長、株式会社ウェックトレック代表。デナリ、アコンカグア、キリマンジャロ、エルブルースなどに登頂。1986年ヒマルチュリ南稜初登攀、1995年チョモランマ北東稜初登攀。1995年、貫田宗男とウェックトレックを創設。日本初のエベレスト国際公募隊の企画を目指したが、1996年のエベレスト大量遭難を契機に方針変更、テレビ番組のコーディネーターを中心に活動。「NHKスペシャル」、「グレートサミッツ」、「グレートヒマラヤトラバース」、「世界の果てまでイッテQ!」など。2002年日本赤十字社アフガニスタン医療キャンプ参加。海外登山のツアーリーダーや登山ガイドの経験多数。現在は民俗学や山の文学等を中心に、日本山岳会で活動中。



倉岡裕之（くらおか・ひろゆき）

1961年、東京生まれ。日本山岳ガイド協会・山岳ステージII。ギアナ高地エンジェル滝の世界初登攀、デナリ南壁などの現役時代を経てヒマラヤ8000m峰のガイドを中心に活動。エベレストのガイド登頂は11回の日本人最多。2013年は三浦雄一郎エベレスト隊の登攀隊長を務める。日本人初の世界7大陸最高峰のガイディングなど、7大陸最高峰のガイド登頂は約60回以上。ミャンマー最高峰カカボラジ登攀隊長など、海外の高峰登山多数。



神長幹雄（かみなが・みきお）

1950年、東京生まれ。1975年、信州大学人文学部卒業。在学中休学して、2年間、アメリカに滞在。山と溪谷社入社後は雑誌編集部を経て、『山と溪谷』編集長。その後は出版部に所属し、多数の山岳図書の編集を担当。辺境の山、ヨーロッパ・アルプスなど海外取材の経験も多く、個人的にもこれまで60カ国以上の国を旅する。著書に『未完の巡礼』『運命の雪稜』（ともに山と溪谷社）、『豊饒のとき』（私家版）など。共著『日本人とエベレスト 植村直己から栗城史多まで』で、第12回「梅棹忠夫・山と探検文学賞」を受賞。編著に『山は輝いていた 登る表現者たち十三人の断章』（新潮文庫）。図書編集者、日本山岳会会員。



扇田孝之（おおぎだ・たかゆき）

1946年、東京生まれ。明治大学大学院修士（法哲学）。76年から大町市で山荘経営を始める。他方、国内外の多様なネットワークを活かした研究・実践活動が続けている。特に「冒険とスポーツの国際映画祭（白馬村、仏・アヌシー市共催）のコーディネーター」、「ツーロン・海洋と探検国際映画祭」審査委員、バンフ山岳映画祭、トレント山岳冒険映画祭等に招待され、世界の冒険者との交流を深めた。「梅棹忠夫・山と探検文学賞」、「信州の山岳文化創生会議」の創設に関わり、委員を務める。『素朴だけでない田舎暮らしの馴染み方』（現代書館）、『東京発信州行き鈍考列車30年』（現代書館）など著書多数。

写真展、講演・シンポジウムのお問合せ

〒398-0002 大町市大町8056-1 市立大町山岳博物館
Tel:0261-22-0211 Fax:0261-21-2133
e-mail:sanpaku@city.omachi.nagano.jp